



府食第538号
平成28年8月23日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 熊谷 進

平成28年度食品安全確保総合調査追加課題（案）について

このことについて、平成28年8月4日に開催した平成28年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第3回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

平成28年度

食品安全確保総合調査追加課題（案）について

平成28年8月

食品安全委員会 研究・調査企画会議

事前・中間評価部会

平成 28 年度食品安全確保総合調査追加課題（案）

番号	調査課題	調査目的
1	原材料に着目して料理を品目に細分化する手法等に関する諸外国の実態調査	<p>化学物質等のリスク評価を行うに当たっては、ばく露量を把握することが極めて重要である。</p> <p>特に、汚染実態調査等のデータが少ない料理については、その食品を原材料等の品目に細分化し、ばく露量を推定する必要があるが、原材料、重量、調理方法、調理時間等の情報が十分に入手できる料理は国内において限られている。</p> <p>食品安全委員会では、平成 27 年度に、原材料に着目して料理を品目に細分化する手法等について、主にウェブサイト公表されている情報等を調査したが、各国当局の調査において、ウェブサイトで公表されていないような細かな手法が存在することが判明した。</p> <p>このため、本調査はウェブサイトで公表されていないより詳細な情報を中心に収集し、ばく露量の検討に活用することを目的とする。</p>
2	次世代シーケンサーの活用状況等に関する調査	<p>近年、ゲノム全体の網羅的な解析を可能とする次世代シーケンサー（以下「NGS」という。）を用いた塩基配列決定法が急速に普及しており、遺伝子組換え食品等の安全性評価に際しては、今後、NGS データを用いた安全性評価の件数が増加することが予想される。</p> <p>本調査は、日本における遺伝子組換え植物の安全性評価に資するため、関連する科学文献等の収集・整理・分析により、海外における NGS の活用状況を把握するとともに、現在、遺伝子組換え植物の安全性評価の際に一般的に用いられている分析法によるデータと NGS により作成されたデータの比較・検討を行い、NGS を安全性評価に用いる際の課題を明らかにすることを目的とする。</p>